

五戸総合病院での地域医療研修を終えて

平成31年1月研修医

順天堂大学医学部附属浦安病院 初期臨床研修医

荒井 雄太

研修開始前日に八戸駅で新幹線から降りて改札を抜けると、身を切るような寒さと靴が埋もれてしまうほどの積雪に迎えられ、私の地域医療研修は幕を開けました。

五戸総合病院で過ごした1か月間の研修は、新鮮な驚きと感動の連続でした。今まで都会の大学病院で経験してきた診療と、ここ五戸町で経験した医療とを比較して気づいた点が2点ほどあります。

第一に、ひとりの医師としてカバーする症例の幅広さが段違いであるという点です。高度に細分化された近年の医療では、疾患毎に担当する診療科がある程度固定されている傾向があります。例えば急性膵炎を診るのは消化器内科医、誤嚥性肺炎を診るのは呼吸器内科医、といった様子です。私自身、大学病院ではまず目の前の患者がどの診療科の疾患に該当するのかを考えてしまっていました。しかし五戸総合病院ではあらゆる分野の内科疾患について外来、入院を問わず診療することができました。特に高齢者医療の重要性が高まっている昨今、プライマリ・ケア領域に限らずとも多数の疾患を抱えた患者さんを包括的に診療していくスキルが求められます。今回の経験から、これから呼吸器内科という専門領域に進んでいく中でも内科全般の知識をupdateしていく重要性を改めて教わったように思います。

第二に、病院を出たその先も含めてヘルスケアを提供しているという点です。高度機能病院であり超急性期病院でもある大学病院では、急性期を凌いだ後は慢性期病院へ転院させてその後のリハビリテーションや自宅環境の調整を行っています。これは病院の役割という面から仕方ないのかもしれませんが、患者さんというよりは疾患に対する診療となっている様相があります。一方五戸総合病院で訪問診療や施設での診察を体験すると、全人的なヘルスケアを行っているという感覚がありました。その人が日常生活を送っている場で診療を行うことで、病棟でいくらお話をしても得られない情報を得ることができ、新たな問題点を発見できるのだということを体感しました。

訪問診療で伺った患者さんはとても安心した様子で歓迎してくださいましたが、そこには病院から医療者が来てくれたということの他に、地域の中でしっかりと看てもらえているという感覚があるのではないかと思います。一方で、各々の現場で診療を行うだけでなく、地域ケア会議などで行政や他の施設とも連携して町の医療福祉行政を支えているのだということを学びました。

2年間の初期研修もまもなく終わり、4月からは後期研修が始まります。元来地域医療に対する興味があり、この1か月間でその面白さを再認識することができまし

た。五戸町での診療はもちろんのことながら、生活も楽しく充実していました。いつになるかはわかりませんが、一度研修をさせていただいたご縁もあるこの土地でいつかまた過ごしてみたいと思います。

最後になりましたが忙しい外来・病棟業務の中で常に丁寧に御指導くださいました佐藤先生をはじめ、多くの学びを得る機会を頂いた諸先生方、宿舎の手配や送迎など快適な研修が送れるようご配慮くださいました管理班の皆様、誠にありがとうございました。